

しわネット

2005
Sep
9月

ポータルサイト <http://www.town.shiwa.iwate.jp/>

No.679



まちづくり座談会

特集



夏だ!花火だ!
第34回
紫波夏まつり

環境ミニ特集……8ページ
おっぽの会……11ページ
新シリーズ
水の☆の水水しいお話……13ページ
「協働を考える会議」参加者募集……15ページ



まちづくり座談会を終えて

町長からのメッセージ

毎年実施しているまちづくり座談会を、新しい施設「虹の保育園」と「県立紫波総合高校」の見学も盛り込みながら地区ごとに開催しました。

今年のテーマは、「協働のまちづくり」です。今年度から組織改革で総務課の中に協働支援室を設置して取り組んでいるものです。今後、町が持続的に発展するためには、地域をより知っている、そこに

住んでいる皆さまの力が最も重要となってくるからです。住民の皆さまが中心となって「まちづくり」を進めることが必要であると思います。職員は常に見識を高めて、アドバイザーとして町民に信頼されるよう共に励んでまいれる所存であります。

座談会においては、多くの意見、

提言を拝聴いたしました。苦情

よりも積極的で、かつ行動的な意見が多く出されたのが特長であり、心強い思いをいたしました。今年度は協働のまちづくり初年度ですが、よりいっそう協働について多くの皆様の理解とご協力を得て、町民から信頼される行政を構築していく中で、住民と協働のまちづくりを進めてまいります。

そして、行政が主導ではなく、住民が主体的に行動する協働のまちづくりを目指す中にも、紫波町らしさを表現し「循環型のまちづくり」とリンクした「協働のまちづくり」を町民の皆さまとともに構築してまいります。よろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。

藤原 孝



フルーツの里まつり 9月23日(祝) 午前9時~午後4時

産直がそれぞれ趣向を凝らし、午後2時にはいっせいにもちまき! 産直のはしごもいんですよ。

ここで紹介するのはイベントのほんの一部です。詳しくは各産直にあるチラシをご覧ください。問合せ/紫波フルーツの里まつり実行委員会(農林課) ☎672-2111

デジカメ探検隊



●今月のタイトル「雨あがりのカモミール」表紙左下の写真は、小学生が環境探検隊で撮影したものです。

6 あづま産直センター
(ラ・フランス温泉館駐車場にて)
☎673-8555
もちつきともち振舞 11:00
ピンゴゲーム 15:00
機関車トーマス運行

3 古館産直センターグリーンハウス
☎672-6699
りんごの皮むき選手権 11:00
500円お買い上げ毎に輪投げで景品

5 ルート396長岡
☎672-5031
りんご・ぶどうプレゼント(先着400人)
2000円以上お買い上げで商品券発行

1 産直センターあかさわ
☎676-5201
ぶどう皮とばし大会 10:00
紫野し踊 11:00

フルーツパークまつり
☎676-5301
紫波ひめ隊もち振舞 10:00
輪投げで野菜・果物ゲット! 10:30
宝探しクイズ 13:40
ポニーと遊ぼう! 乗馬体験

4 志和握里センターもっす
☎673-7684
野菜・くだもの特売

8 紫あ波せ本舗
☎671-2270
レジ通過者先着100人におかきプレゼント

7 産直センター大巻
☎672-1144
輪投げ大会で卵をゲット
もち・ぶどう・ジュースの試食試飲

2 紫波ふる里センター
☎674-2757
金山太鼓演奏 11:00
1000円お買い上げの人抽選会

まちづくり Q&A 座談会



住民満足度の高い町を目指すには、これまでの行政主導のやり方では、人口減少、少子高齢化が進んだことなどにより困難な社会情勢となりました。そこで住民一人ひとりの能力を生かし、町民・事業者・行政が協力しあう「協働のまちづくり」を進めています。座談会はこれに対する理解を深める説明、事例紹介から始まりました。会では皆さんから出された内容をイラストで表し、終了時には今日の話し合いを絵で振り返ることができ、「ファシリテーターグラフィック」という手法も取り入れられました。

Q01 地域と協働職員

協働のまちづくりを進めるうえで、住民の協調をとるため先立ちする人は苦勞しています。学区や町内会など、ある程度のエリアが必要ではないでしょうか。役場の職員は地域とのかかわりはどうなっているのでしょうか。

A

自治公民館単位に地域協働職員を割り当てし、区長、自治公民館長にお知らせしてあります。地域協働職員は地域の一員として行事に参加するとともに、行政という立場も生かし、裏方的な役割をはたします。住民との協働を進めるために、今年度から協働支援室を設置しています。NPOなど決まった目的を持つ団体と違い、町内会は全町民が関わるコミュニケーションです。遠慮なく相談してください。

Q02 図書館

図書館はいつできるのでしょう。立

派な建物でなくてよいので、専門の職員を置いたり、近隣図書館とのネットワークで必要な資料が手に入るよう、ソフト面で充実させてほしいです。

A

これまで図書館を考える会やしわフェローの皆さんからも提言をいただき、現在は紫波町に必要な図書館像をまとめるため、先進地研修を重ねています。九月には秋田県の図書館を町民の皆さんとともに視察します。

来年度は構想をまとめる予定で進めています。

Q03 五郎沼

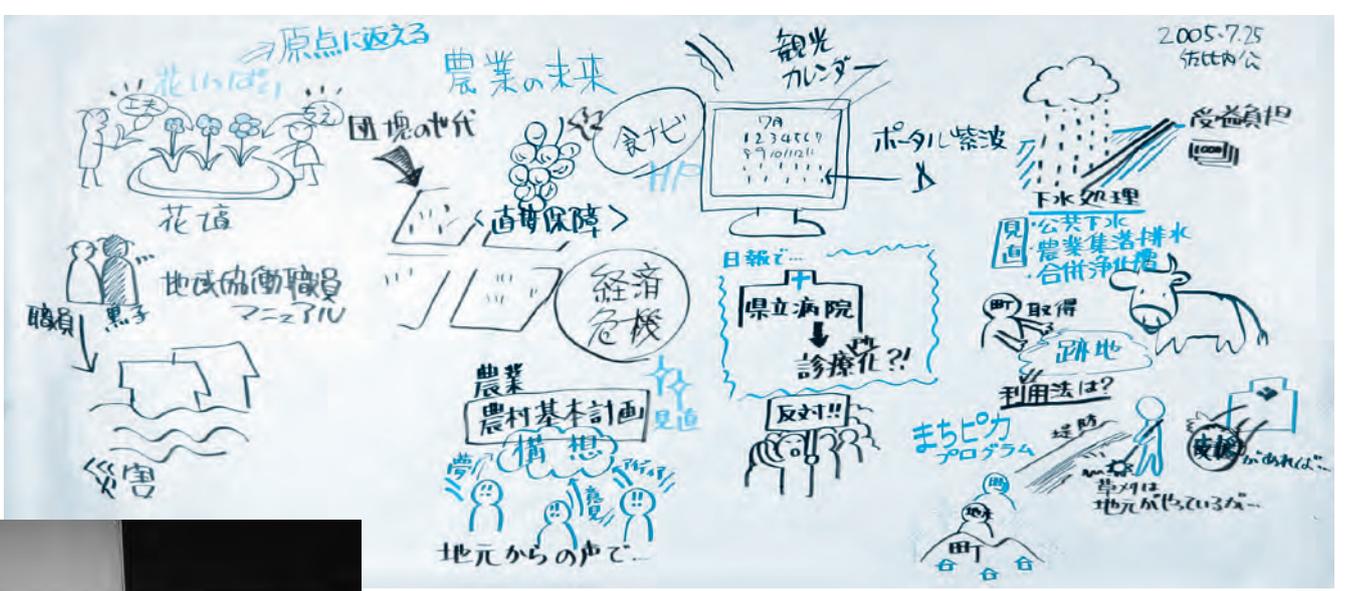
五郎沼は古代蓮の里帰りなど平泉文化遺産との関わりも深く、四季折々の楽しみがあります。国道に看板を設置したり、トイレや休憩所を整備し、町の観光スポットとしてもっとPRしてはどうでしょうか。



観光スポットとして期待される五郎沼



話し合いを振り返ることができ、グラフィック



子どもの家は三年生までの児童で定員がいっぱいとなっています。施設の広さや職員の数から定員以上にあずかることはできません。日詰地区ではなんバザホールで「あいぼらパピリオン」として平日午後六

A

共働きの家庭も増え、学童保育が不足しています。西部地区にはまったく学童保育はないし、中央では四年生以上も預かつてほしいと希望する声をよく聞きます。

Q04 学童保育

五郎沼は、地域の皆さんが愛護団体をつくり、桜の植樹や白鳥の餌やりなど愛され親しまれています。最近では水底が浅く白鳥が泥まみれになることもしばしばあったのですが、農業用水の面では大きな問題は発生していません。観光スポットとしても町でも盛り上げたいところでありますが、一方で公衆の休憩所やトイレは犯罪、いたずら対策など、管理面での態勢を整えないと維持していきけない実態があります。

A

現在進めている上平沢地区は平成20年に供用開始できる見込みです。また、公共下水道、農業集落排水など集合処理区域外には、平成18年から町管理型浄化槽の利用ができます。説明会も随時開催しますが、個別に下水道課にご相談ください。

A

下水道整備はどつなっているのですよ。

Q06 下水道整備

火葬場は年間三四〇件ほどの利用があり、昭和49年建築の炉は老朽化しています。現在候補地を四か所程度考えており、駐車場スペースや拜殿の広さなど検討中です。総合計画にのっとり、平成19年に着工できるよう進めています。

A

火葬場移転の具体的予定はどつなっていますか。

Q05 火葬場

時までと土曜日に自由に子どもたちが出入りできる場所をボランティアが用意しています。新たに子どもの家が必要という場合は、必要な皆さん自身が中心となって進めていきますので、実態を把握の上、子育て支援室に相談してください。



ほぼ毎日利用されている火葬場



そのほかの 提言

● 冬場に杜氏として西日本に行くが、最初に駅に降りて見かけたごみが、春引き上げてくる日も、まだ放置されていることがあった。それにくらべると紫波はクリーン運動などの成果が、きれいな町でよかった。

● 敬老会が地区公民館ごとの開催で、規模が大きく形式的になっています。人数の多い地区は自治公民館での開催が望ましいのではないのでしょうか。記念品などにはお金をかけなくてよいので困っている人に回して欲しいという老人もいます。

● 循環型の安全安心な農産物をつくっている町として、農産物の通信販売や、グリーンツーリズムのテーマパーク、産直レストランの充実など町外から収入を得られる手段を考えてはどうか。経済は町内循環だけでなくもよいでしょう。

● 公園の水道など公共のものを使って洗車している人たちがいます。夜間の見回りなどを強化してください。

● 地域の大人が学校に関わり、子どもたちにさまざまな体験をさせている「ゆうこうセミナー」※は、素直な心を育んだり、心の変化に気付いてあげたり現代には必要なことだと思います。成果を公表し、もっと多くの人が関心を持ち、地域全体で見守るようになるといいですね。



※ゆうこうセミナー 中学校の学習時間の一部を利用し、生け花や料理、ビデオ番組の制作など、さまざまなメニューを地域の大人が講師になって子どもたちに教える。子どもたちは学校の勉強以外の体験ができ、先生や親以外の大人とかわり視野をひろげ、大人も子どもたちへの理解を深めていく。

今回の座談会は、町の新しい施設「虹の保育園」と昨年新築された「紫波総合高校」でも行なわれました。県立高校の施設を見る機会は一般の人はあまりないのですが、300人ほど収容できる紫波総合高校の階段式のホールを、今後も町民に開放し利用させてほしいという意見も出されました。



夏だ！ 花火だ！

夜空のイルミネーションに喝采 8/7

連日の猛暑が続く八月、第三十四回紫波夏まつりに町内外から一万八千人が訪れました。体育館のエントランスを舞台に繰り広げられるステージは、一輪車、吹奏楽、ダンス、郷土芸能と次々に続き、商店街を出発した神輿も祭りを盛り上げてくれます。盆踊りには、十七団体四百三十七人が参加、日暮れとともに屋台村も通路いっぱいの人で賑わい、紫波総合高校の生徒を含むボランティア有志が企画した夏まつりを大勢が楽しみました。

町制五十周年を記念したもう一つの見どころは、城山公園からも打ち上げる花火です。佐比内金山太鼓の見事なバチさばきに魅了されるとすぐに夜空に大輪の花が咲き、特大スターマインがファイナーレを盛り上げ、野球場や堤防の観客席から歓声と拍手が湧き起こりました。今年のまつりでは、五百二十六事業所の協賛、募金箱設置など多くの善意で四八二万〇五六円が集まり運営のために役立てられています。



豊かな暮らしと、 豊かな自然のために、 まちも、人も、 がんばっています。

人の暮らしと、自然環境が
ひとつの環わになるよう、
循環型まちづくりを
目指す町では、
環境を大切にする
さまざまな取り組みが
始まっています。
見たり、聞いたり、挑戦したり、
身近なところから
あなたのまちづくりを
始めてみませんか。



1

環境・循環PRセンター 町産木材再生利用施設

森林資源循環の一環として、地元産木材を利用し、上平沢小学校や虹の保育園を建設しました。これらの建物は、町内外の多くの皆さんから木の匂い香る、温かみのある施設として高い評価をいただいています。

昨年9月、虹の保育園が突然の火災に遭い、それに伴う被害木材が多く排出されることになりました。焼却処理せざるを得ないと考えていたところ、NPO法人紫波みらい研究所から、「被害木材を循環・再利用して、町の資源循環を広く発信す

る施設を建設してはどうか」との提案がありました。

町では、この提案を受け、住民・NPO・事業者・町の協働による「環境・循環PRセンター 紫波町産木材再生利用施設」の建設を紫波中央駅前を進めています。

8月10日に、建設協力会の主催により、無事完成を願う上棟式が行なわれ、神事と紫波ひめ隊によるモチつき、そして米3俵を使った6千個のモチまぎが行われました。

建物は、町の循環型まちづくりや観光スポットをPRするスペースと紫波の特産品を展示販売するスペースの構成で、9月末完成予定となっています。



まもなく完成するセンター。紫あ波せ本舗もここで営業。

JA女性部町内9支部から集まった踊り手。



2

環境マイスター養成事業が スタートします！

養成講座受講者を募集しています

町が進めている循環型まちづくりは、良好な環境を百年後の子どもたちに引き継ぐことを目的としています。町民の皆さんには、環境を保全・創造する意識を共有し、積極的に環境・循環の取り組みに参加されるようお願いいたします。

町では11月から環境マイスター養成事業をスタートさせます。この事業は、身近な環境を評価し、地域での環境保全活動のリーダーとなる「環境マイスター」を養成しようとするものです。養成講座は11月から3月までの間に7回開催し、環境に関する基礎的知識や評価の方法などを身につけていただきます。環境を守る活動に関心のある皆さんの応募をお待ちしています。

講座実施予定

11月5日(土)、11月19日(土)、
12月3日(土)、12月17日(土)
平成18年2月25日(土)、3月4日(土)、
3月11日(土)

いずれも午前9時30分から午後3時ごろまでの時間帯
※講座の日程は変更になる場合もあります。

応募資格

町内在住・在勤・在学している16歳以上で、環境学習・環境保全のための活動を地域で行なうことができ、次の要件のいずれかに該当する人。

- (1) 環境保全・環境学習の活動に取り組みたいと考えている。
- (2) 町の環境・循環に関わる諸委員会などに携わっている、あるいは携わったことがある。
- (3) 県の環境アドバイザー、地球温暖化防止活動推進員、森の達人などに携わっている、あるいは携わったことがある。
- (4) 自治体などの環境保全に関わる仕事に従事した経験が3年以上ある。
- (5) 町長が認めた、環境に関する活動経験がある。

● 募集人員 20人(応募者が募集人員を超えた場合は抽選とします)

● 参加費用 無料

● 応募・問合せ 10月11日(火)までに住所、氏名、年齢、職業(学校)連絡先を環境課循環政策室までお知らせください。

〒02833305

日詰字郡山駅57番地3 役場第三庁舎

☎ 6722111(内線5521)

有線 01-8972

メール kanky@town.shiwaivawate.jp

3

フルーツ・マイバッグ 作品大募集！

町と紫波町ごみ減量女性会議では、増え続けるごみを減らす方法の一つとして、「マイバッグ運動」を推進しています。これは、買い物に行くときにマイバッグ(買い物袋)を持参し、ごみになつてしまつレジ袋を受け取らないというものです。

この運動を多くの人が知り、楽しく取り組むため、このたび「手作りマイバッグ」の募集をします。募集する作品のテーマは、「フルーツの里しわーにちなんで、フルーツをイメージしたものとします。応募された作品は、10月21日～23日の紫波町産業まつりの期間中、ごみ減量女性会議が開催するマイバッグ展で展示いたします。

たくさん作品の応募をお待ちしています。

応募要領

● 募集作品 フルーツ(くだもの)をイメージしたマイバッグ。何個でもかまいません。

● 応募方法

応募用紙に住所、氏名、作品名、作品の説明を記入し、持参または郵送(用紙は役場環境課で準備しています)

● 募集期限

10月14日(金)午後5時必着

● 応募先・問合せ

紫波町ごみ減量女性会議事務局
(循環政策室内)

〒02833305

日詰字郡山駅57番地3 役場第三庁舎

☎ 6722111(内線5521)

☎ 67111654

メール kanky@town.shiwaivawate.jp





釜石市の地域再生計画の説明を真剣に聞く委員のみなさん。

4

循環型まちづくり委員会が
新たにスタートしました

循環型まちづくり条例に定められている循環型まちづくり委員会が、6月29日に、新体制でスタートしました。同日、委員に委嘱された皆さんへの辞令交付と第一回委員会が行われ、委員長に阿部昌利さん、副委員長に箱崎正子さんが再任されました。各委員からは今後の抱負が述べられ、会議の運営方法などに

ついて話し合われました。この委員会は、町長からの委嘱を受けて、循環型まちづくりについて調査、研究し、各委員は町の計画に対して提言することになっています。

8月25日には、資源循環型社会に対応した産業の育成や、鉄の歴史と環境を生かす地域づくりに取り組む釜石市を訪問し、視察調査してきます。

委員のみなさんには、平成19年3月31日までの任期で活動していただきます。



循環型まちづくり委員の皆さん

役職	氏名	地域
委員長	阿部 昌利(再任)	二日町
副委員長	箱崎 正子(再任)	南日詰
委員	阿部 恵子(新任)	日 詰
	梅澤 安志(新任)	赤 沢
	小澤由香里(新任)	中 島
	齊藤 文子(再任)	平 沢
	佐々木功子(新任)	東長岡
	菅原 民雄(新任)	平 沢
	高橋 淳(再任)	片 寄
	高橋 征司(新任)	土 館
	高橋 秀子(再任)	星 山
	半田 孝壽(新任)	山 屋
	細川 栄子(新任)	片 寄
	松坂 みき子(新任)	佐比内
	水本 俊彦(新任)	陣ヶ岡

草や野菜の枯茎などを燃やすときは

最近、田のあぜで刈り取った草の焼却や畑で野菜の枯れ茎を燃やしていることについて、「ぜんそくのため苦しい。」「洗濯物に臭いが付く。」などさまざまな相談や苦情が寄せられています。

法律や県の条例では「農作業に伴う稲わらやもみ殻、草、果樹の選定枝を焼却すること」を野外焼却の例外規定として認めています。住宅地ではぜんそくや煙の臭いで困っている人がいます。また、道路に煙が流れて前が見えなくなり通行上危険となる場合もあります。

草を焼却することは、カメムシなどの害虫駆除やあぜの管理に効果的な方法であり、昔から行われてきたことですが、焼却する場合には、よく乾燥させて少量ずつ風向きを見ながら行うなど、特に住宅地域では周囲に迷惑をかけないような配慮をお願いします。



環のくに 紫波

vol.5

担当 循環政策室
☎672-2111 内線5521



おっぽの会

シリーズ「環のくに紫波」では、地球環境・美しい紫波を守るため活動している皆さんを紹介しています。

おっぽの会

「犬といふ」がありふれた光景になるのを目指して

犬やねこをなでたり、一緒に遊んだりする心が落ちつき、楽しい気分になります。老人ホームの高齢者や病院に長期入院している患者が犬やねこ遊びたい一心でリハビリを頑張り、心からの笑顔を見せてくれることがあります。

おっぽの会は犬の飼主同士が交流を深め、犬が社会にもっと受け入れられることを目的として設立されました。設立のきっかけは、数年前に児童入所施設を訪問したとき、犬を抱きしめた子どもがその生きているぬくもりを感じ、嬉しそうに笑顔を浮かべたのを見たことです。他の人たちにも命のぬくもりを感じてもらおうと色々な施設を訪問するようになりました。

現在は百寿の里や盛岡南病院、盛岡少年院などに訪問しています。いつもは積極的に動くこととしない高齢者が思わぬ積極性を見せ、作り笑いか浮かべていなかった少年が担当者もびつくりするほど明るい笑顔を見せるなどの反応がありました。もちろん、犬が嫌いな人もいましたが、「犬は嫌い」とはつきり言うことが自分の意思を伝える訓練にもなります。

また、岩手県獣医師会や紫波町と

共催で開催している「犬のマナーアップ教室」は、今年度は六月に開催され、四十人を超す参加者がありました。

おっぽの会の中野英明会長は「犬が社会に受け入れられ、公園や広場などで一緒に遊ぶことがありふれた光景になるように努力したい」と穏やかに語っています。

飼い主の中には、犬のフンや鳴き声などで近所とのトラブルになる人もしばしばいます。しかしトラブルの多くは、飼主がしつけや飼い方に気をつけられれば未然に防ぐことができます。トラブルを起すようになった犬を捨やさないためにも、「気楽に飼主や犬が集まり、色々な情報を交換できる場所をつくり、守っていきたい」と決意を語ってくれました。

ペットが社会にもっと受け入れられるためには、飼主一人ひとりがフンの後始末などのマナーや、ペットを飼っていない人たちとのコミュニケーションをどう図ればいいのかを考え、行動していかなければなりません。

おっぽの会はそのための一歩を踏み出しています。



マナーアップ教室の様子



おっぽの会への問合せ
中野英明会長宅
0970-012300

地域づくりインターン 大学生二人が民泊で

7/28~
8/11

2005
まちの
わだい



中心市街地活性化事業の一環として、国土交通省「若者の地方体験交流支援事業」が取り組まれました。(株)よんりん舎が受け入れ主体となり、筑波大学大学院一年竹田英司さん(奈良県出身)と東京海洋大学三年水口恵太さん(京都府出身)が、民泊をしながら商店街の聞き取り調査をしたものです。

最終日の発表会では、町の資源を活用した(株)よんりん舎の展望、城山〜商店街〜水辺プラザを結ぶルート、ひづめ夜市などのイベント、町おこしまで、若い学生の視点で発表。活性化に向けた貴重な資料となりました。



夏休みの工作 紙きりに挑戦

8/8



星山子ども家では十八人の子どもたちが、紙の單車屋としておなじみの紙きり職人石田義信さんからきり絵を教わりました。子どもたちの希望で男の子はバイク、女の子は犬を作ります。グラデーシヨン折り紙から二十ほどのパーツを切り張りし、サインをして額に入れて完成です。

石田さんはモトクロスレーサーのライセンスを持ち、バイク好きからオリジナルの作風で切り絵でバイクを作っています。最近はずどもたちに教えることも多く、バイクだけでなくヘルメットをかぶった動物などかわいらしい作品も作っています。「大人の常識的な色使いではない子どもものの感性が、勉強になる」と石田さんは言います。



水の☆の水水しいお話 <1>

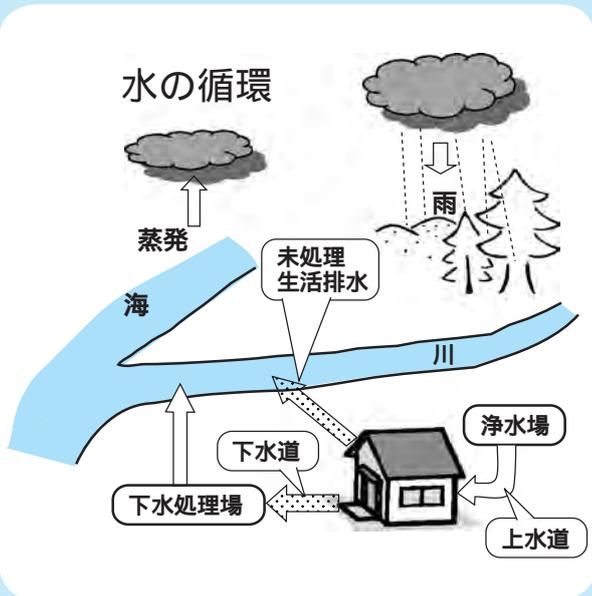
水の循環の仕組み

人類初の宇宙飛行士ガガーリンは、「地球は青かった」と言いました。それまでは、地球を宇宙から見ることはできなかったのです。その言葉に大変驚いたものです。そして今、日本人宇宙飛行士の野口さんもやはり、「地球は青い」と言っていましたね。それもそのはず、地球表面の2/3は水で覆われているので、それが青く見えたのです。（オゾン層の影響もあります。）人体もおおよそ2/3が水分とされています。まさに、水の星に住む水の住人です。

下の図は、普段私たちが無意識のうちに使っている、水の循環の概略を表したものです。天の恵みは雨となって大地を潤し、浄水場で浄化されて、上水道により各家庭に給水されます。使われた水は、下水となって下水処理場で処理され、河川に放流されます。文化程度が高くなるほどに、一人当たりの水の使用量は多くなり、未処理の生活排水が河川を汚染しています。

「健全な水循環系」の維持には、その他にも多くの課題があります。このコラムでは、身の回りの水について、考えていきます。

（下水道課）



大学生のお兄さんの人形劇に大喜び

8/3



虹の保育園に、京都から仏教大学の学生が訪れ、人形劇を披露してくれました。夏休みを利用して巡回公演をおこなっているもので、紫波町には二十一年ほど続けて毎年訪れています。人形劇をとおして小さな子どもたちに優しさや思いやりの心を伝え、大学生たちは地方の文化に触れることなどを目的に続けられています。



交通安全ゲートボール大会

8/25

多目的スポーツ施設「サンビレッジ紫波」を会場に、全二十三チームが競技に挑みました。交通安全のためのルールとゲートボールのルールを取り混ぜて得点を競うものです。

九月二十八日同会場で行われる郡大会に出場する上位八チームは、
優勝 稲藤クラブ(志和)
準優勝 長栄会(水分)
第三位 柏会(日詰)
以下、常緑会(水分)、
桜寿会(赤石)、
福寿クラブA(赤石)、
長生会B(赤石)、
十日市(古館)です。



法の日記念、無料相談会のお知らせ

10月1日の「法の日」を記念して、今年も土地家屋調査士・司法書士合同無料相談会が開催されます。

土地家屋調査士・司法書士合同無料相談会

- 日 時 10月1日(土) 午前10時～午後3時
- 会 場 紫波中央公民館
サンライフ盛岡(盛岡市仙北二丁目4番12号) ほか

相談内容

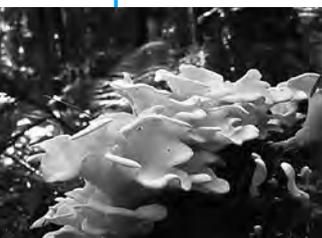
- ・表示登記無料相談
調査・測量、境界の確認、表示登記、床面積変更、更正登記、その他土地・建物の表示に関すること
- 問合せ 岩手県土地家屋調査士会 ☎631-3332
- ・司法書士無料法律相談
不動産・商業登記手続の代理、訴訟書類の作成、簡易裁判所の手続代理
- ※電話による無料法律相談[登記110番]もあります
受付電話 ☎652-9350
- 問合せ 岩手県司法書士会 ☎622-3372

交通安全コンクール 「チャレンジ100しわ」参加者募集

10月1日(土)から平成18年1月8日(日)までの100日間の無事故無違反を競います。

- 参加資格要件 運転免許証を所有し、町内に勤務先または住所がある5人で1チームを編成する。
- 申込方法 申込用紙に参加料5,000円を添えて、9月22日までに役場3階消防安全室または紫波交通安全協会へ持参してください。(申込用紙も同所にあります)
- 問合せ 消防安全室 ☎672-2111 内線3132

スギヒラタケにご注意



きのこ採取シーズンを迎っていますが、昨年スギヒラタケ摂取による事故が発生しています。現時点では安全性が確認されていないので、腎機能の低下していない人も含めスギヒラタケの摂取を控えてください。

特徴は林野庁のホームページに掲載されています。

<http://www.rinya.maff.go.jp/puresu/h16-10gatu/1026sugihiratake2.htm>

多重債務の相談会

町では、信用生協の相談員による『多重債務に係る相談会』を開催します。

- 日 時 9月26日(月) 午後2時～7時まで
- 場 所 総合福祉センター 1階相談室
- 持参するもの
 - ・契約内容がわかるもの(契約書、申込書、支払明細書)
 - ・支払状況のわかるもの(領収書、振込みの控えなど)
 - ・借入先の残高一覧表(複数の場合、現在残高を調べて一覧にする)
- 問合せ・相談先
岩手県消費者信用生活協同組合 ☎653-0001
※信用生協(盛岡市南大通1丁目8-7)では個別の相談(借金問題・悪質商法・くらしの悩みなど)を受け付けています。相談時間は平日午前9時から午後8時、土曜は午前9時から午後5時です。

がんばっている高齢者を支援 「シルバーパワーネット」

高齢者が主体となって社会貢献活動をしている団体に助成金(5万円程度)を支給するものです。活動のためのパンフレット作成や講師謝礼、会場借用料などに利用できます。詳しくは問い合わせの上、助成要望書を提出してください。

- 応募期間 平成17年度分 10月7日(金)まで
平成18年度分 平成18年1月10日(火)～2月3日(金)
- 問合せ 盛岡地方振興局保健福祉環境部
☎629-6572

催眠商法にご注意ください

催眠商法は、民家や空き店舗を会場にして、近隣のお年寄りや主婦を集め、日用品や食品を無料で配布したり、格安で販売し、会場の雰囲気盛り上げ、最終的には羽毛ぶとん、磁気マットレス、電気治療器、健康食品などを売りつける商法です。

対策は、安易に勧誘にのらないことですが、会場に行ったとしても、雰囲気にのまれず、必要でないものは、はっきりと断りましょう。会場を転々として開く場合が多いので、被害防止のためには、地域的な相互協力も大切です。

「紫波町の協働を考える会議」 参加者募集

町では「紫波町の協働を考える会議」の参加者を募集します。この会議では、町の住民参加や協働のあり方について議論し、作業していきます。

- 活動内容 住民参加についての提言
行政と住民の協働についての提言
- 活動期間 依頼の日から1年以内
- 応募資格 18歳以上の町在住・在勤・在学の人
- 募集人員 特に人数を定めませんが、応募者多数の場合は選考になることがあります。
- 応募方法 住所、氏名、電話番号、年齢、性別、応募の動機を明記の上、ご応募ください。町外在住者のみ勤務先、学校名、活動内容など町とのかかわりも記入。(応募の書式は自由です)。
- 締め切り 9月26日(月) ※決定後応募者全員に連絡します。
- その他 報酬旅費などの支給はありません。

「ファシリテーター養成講座」 受講者募集

町では、「ファシリテーター養成講座」を開催します。ファシリテーターとは、会議の調整役で、サークルや地域の会議で活躍することができます。どなたでも受講できます。

- 開催日 ファシリテーター基礎講座
10月13日(木)・14日(金)
ワークショップなどでの実践
11月から翌年3月まで5回程度
- 募集人員 30人。参加費無料
- 応募方法 住所、氏名、電話番号、年齢、性別を明記の上、ご応募ください(応募の書式は自由です)。
- 締め切り 9月末 ※決定後応募者全員に連絡します。

あて先 〒028-3390 協働支援室宛 / FAX672-2311
Eメール soumu@town.shiwa.iwate.jp
問合せ 総務課協働支援室
☎672-2111 内線 3142

今年は国勢調査の年

10月1日、国勢調査を全国一斉に行います。5年に1度、日本に住んでいるすべての人を対象とした大規模な統計調査です。調査する項目は、男女の別、出生の年月、就業状態、通勤・通学地、住居の種類などです。調査内容が、他に漏れたり、統計以外の目的に使われることは絶対にありません。

国勢調査員が調査票を持って伺います。未来のために、10月1日のあなたを記入してください。

「国勢調査」と「行政機関等個人情報保護法」

国勢調査のような統計調査により集められた個人情報、従来から、統計法という法律で秘密の保護が厳格に規定されていることから、行政機関等個人情報保護法は適用されないことになっています。

◎問合せ 総務課総務文書室 ☎672-2111
内線 3123

山王海ダムを探検 「親子ふれあい研修」

土地改良区で管理する施設の多面的な役割を、楽しみながら理解できるイベントに参加しませんか。親子先着50組の募集です。普段入ることのできない場所をこの機会にぜひご覧ください。

- 日時 10月16日(日) 山王海土地改良区
集合午前10時、解散午後3時予定
- 主要内容(移動はバス)
志和稲荷神社で紙芝居、周辺散策
山王海ダムにて管理施設の見学、もちつき、ウォーキング、地下トンネル探検、水源涵養林学習、ヤマメなど稚魚放流
- 参加費 無料(昼食・おやつを用意しています)
- 申込み・問合せ 10月7日までに山王海土地改良区
☎673-7311



とことん味わう

紫波の
ブドウ



県内1位、東北では6位の収穫量を誇る紫波のブドウがおいしい季節となりました。山の斜面にあるぶどう棚では、雨から守るハウスや光を当てるシートを使い、愛情いっぱい育てられています。農家の皆さんは今、収穫に大忙しです。

ぶどう狩りが楽しめるぶどう園では、小学校の親子行事や、観光客で賑わっています。もぎたてをその場で味わうことが好評で首都圏などからのツアーのコースにも入れられています。



現在フルーツパークに建築中のワイナリーでは、今年収穫されるブドウを使いワイン醸造を始めます。新しい特産品として期待されています。



産直のブドウ
手前左 藤稔、
右 サニールージュ、
奥 左 ポートランド、
右 スチューベン

フルーツの里バスツアー

親鸞聖人の高弟是信房の伝説と、隠れキリシタンの秘話に思いをめぐらせ、ぶどう狩りとバーベキューで楽しくお腹を満すツアーです。

日時 10月2日(日) 紫波中央駅午前9時集合
～午後2時40分散散予定

コース 是信房の墓→ぶどう狩り・バーベキュー→紫波ふる里センター→隠れキリシタン墓

参加費 3,000円(30人募集)

申込み 9月27日(火)までに商工観光室 ☎672-2111

茅葺きで一日とっぷりスローライフ

朝から晩まで、のんびりと民俗芸能を見て、昔話を聞き、地元の手作り田舎料理(昼食、こびる、夕食)を楽しめるイベントが開催されます。



- 参加料 1人1日3,000円(当日集金)
- 時間 午前9時～午後9時
- 申込 それぞれの開催日の2日前までにお申込みください。
- 申込先 御所湖・町場園地を活用しよう会
事務局(株式会社 邑計画事務所内)
☎653-1058
☎653-1056
Eメール: terai@u-keikaku.com
- 集合 申込みの上、直接会場においでください。
受付時間(午前9時～9時30分)

日程	会場	定員	スローな体験プログラム
9/24(土)	【紫波町バスツアー】 ホテル湯楽々(集合場所) 平井邸、武田家、福田家	30人	星山神楽、四壇鹿踊、昔話 紫波の田舎料理、つきたての餅、 温泉入浴
10/1(土)	盛岡手づくり村 南部曲り家	48人	見前町田植踊り、倉沢人形歌舞伎、自然観察会、昔話、繋の田舎料理
10/8(土)	国立岩手山青年の家 南部曲り家(滝沢村)	60人	大沢田植踊、川前神楽、黒森神楽、賢治朗読、啄木の話、柳沢の料理
10/15(土)	【玉山村バスツアー】 ユートランド(集合場所) 啄木記念館、岩洞湖	30人	藪川神楽、土沢神楽、啄木入門講座 温泉入浴、藪川の手打ち新ソバ
10/22(土)	矢巾町歴史民俗資料館 南部曲り家	48人	白沢神楽、広宮沢百姓踊、賢治朗読 鴨沢神楽、もみ殻で炊く新米ご飯
10/29(土)	雫石町歴史民俗資料館 南部曲り家	30人	正福院山祇神楽、石鳩岡神楽 啄木の話、重っこ料理